箕面小だより

箕面市立
箕面小学校
令和6年（2024年）
10月号

学校教育目標	支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子
めざす子ども像	ともに考える子（知）、ともに高め合う子（情）、ともにやりぬく子（意）
めざす学校像	○あいさつと笑顔であふれる学校　○思いやりと優しさが感じられる学校 ○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校　○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

変わらぬ願い

校長　垣内　幸太

いよいよ 10 月 16 日、箕面小学校は 150 歳のお誕生日を迎えます。記念すべきこの区切りの時を皆様とともに迎えられること、たいへん嬉しく思います。この日を迎えるにあたり、「不易流行」という言葉が頭に浮かびます。「奥の細道」などで知られる俳人であった松尾芭蕉の理念に由来する言葉です。「不易」とは、時代はかわっても「変わらず価値のあるもの」。「流行」とは時代によって「変わりゆくもの」であり、「変わらなければ　いけないもの」でもあります。「不易」の中に、たえず流動する「流行」を取り入れていくことが「不易」の本質であるという考え方です。 つまり、どちらも根本はつながっていて、どちらかが欠けていてもいけないものと言えます。学校教育においても重要な示唆をしてくれる言葉です。教育も時代によってさまざまな「流行」があります。開校当時の義務教育制度が導入されたころ、戦時中や戦後の高度経済成長期、情報化社会が目まぐるしい発展を遂げた現在…、学校教育は時代背景に大きな影響を受けてきました。また文明の発展により子どもたちを取り巻く環境も刻々と変化し続けています。ここ数十年でも、詰め込み教育、ゆとり教育、アクティブラーニングなどといった言葉が躍り、新しい教育用語であった「AI による学び」「グローバル化」などが叫ばれもう久しくなりました。

では、「不易」なるものとはなんでしょう…。学校に残されている過去の文献を読み返していると見えてきます。伸びていこうとする子どもの姿、仲間とともに学校生活を楽しもうとする姿。子どものよりよい成長を願い、精一杯の愛情を注ぐ親の姿。学校を支え、子どもたちの安全を見守ってくれている地域の方々の姿。子どもたちの力やよさを少しでも引き出そうと日々奮闘する教職員の姿。昔も今も変わらぬそんな人々の願いこそが「不易」なものではないでしょうか。そして、それらはいまの箕面小の根本を支えてくれているものとして受けつがれていることを実感できます。150 周年を迎えた箕面小学校。今後も時代の要請に応じた「流行」を敏に感じとり、「不易」の中にうまく取り入れながら、先人がつないでくれたバトンをつないでいくことが、わたしたちの使命ととらえ、次の 50 年、100 年へと歩みを進めてまいります。

最後になりましたが、学習発表会には多くの方にご来校いただき、子どもたちへのあたたかい拍手、観覧へのご協力など誠にありがとうございました。子どもたちは日々いろいろな表情を学校で見せてくれます。その成長の過程をみられることは教師の仕事の大きな幸せの一つです。「不易」の幸せです。ご家庭、地域の協力があってのことと感謝しております。今後も皆様のご期待に添えるよう、子どもたちの成長を喜びに、励みに箕面小学校の教育活動を進めてまいります。

次は10月12日。箕面小学校に「集い」、みなさんとともに、150 周年をお祝いできますことを心より願っております。